

住み続けたい街への管理組合情報誌

# リベ・コミ

R I B E R A C O M M U N I C A T I O N

2013年  
秋号  
Vol.9

平成 25 年 10 月 1 日 発行

発行：リベラガーデン住宅団地管理組合法人

編集：広報専門部会

印刷：西日本ビジネス印刷株式会社



ホームページ  
更新中!

<http://www.ribera906.net/>

リベラガーデン

検索



リベラちゃん

# 906 金



リベラガーデン906世帯の金  
題字：松尾 泰子

## 私たちが、新しい理事会(18期)のメンバーです。

906世帯のみなさんが、より生き生きと安全に、かつ共有財産を保全し、老いも若きもすこやかに暮らしていける、そんな素敵なコミュニティ「リベラガーデン」にすべく、頑張っていく私たちです。よろしくお願いいたします。



- |       |                 |      |                   |              |               |  |                |
|-------|-----------------|------|-------------------|--------------|---------------|--|----------------|
| 後列左より | K-山口            | I-野上 | H-平野(俊)<br>(副理事長) | E-中川         | J-大熊          | J-東<br>(副理事長)                                    | A-鮫島<br>(副理事長) |
| 中列左より | J-橋野(裕)<br>(監事) | D-糸瀬 | I-難波              | C-奥津         | D-小林          | K-植木   | E-三上           |
| 前列左より | G-有村            | H-吉峯 | I-平野(瑞)<br>(理事長)  | A-山元<br>(監事) | A-平山<br>(敬称略) | J-田中(顧問)<br>B-藤田<br>B-橋野(光)<br>C-吉田<br>G-谷山 はお休み |                |



### 平野理事長 私の今期の意気込み



今期(第18期)住宅管理組合理事長を務めさせていただきますI棟の平野です。前期(第17期)に引き続き2期目の職であります。

前期は、管理組合の知識や能力がないままで、理事長に立候補するという無謀なスタートでしたが、幅広い知識と経験を持たれた役員の方々やリベラの住民の皆様にご協力とご理解を頂きながらの組合活動で、私自身日々勉強の一年でした。

今期は、大規模設備改修工事(給水方式の変更、インターホンの更新、機械式駐車場設備更新等)を検討し、さらに将来に向けた財務計画・リベラ内防犯体制の確立など、今後リベラの課題となりうる案件に取り組み、住宅役員だけでなくリベラの皆様と情報の共有を図り、解決に向けた対話(リベラ版タウンミーティング開催等)を行いたいと思っております。

私自身、リベラに住んで7年目となりますが、今の生活環境を夫婦共々非常に気に入ってますし、心の中でリベラの住民である事を自慢したくなる時もあり、いつまでもリベラに住み続けたいと思っております。

リベラの皆様が「ここに住んでよかった」「これからも住み続けたい」と思ってもらえるよう、管理組合として「あんしん」「あんぜん」「暮らしやすい」を提供できるよう、環境整備にリベラの皆様と一緒に取り組んでまいりたいと思いますので、組合活動への一層のご理解とご協力を頂きたく、この一年よろしくお願ひ申し上げます。

しばらく不在だった  
リベラの防火管理者が、  
新しく決まりました。



A棟  
川辺克治さんです。

よろしく  
お願いします。

## マンション探訪

### 篠栗町 ベンタナヒルズ

平野瑞保理事長 率いる  
マンション探検隊、篠栗へ!



カウンター

さて、今回のマンション探訪は、粕屋郡篠栗町のベンタナヒルズです。8月29日に私(平野理事長)の他、副理事長の平野さん(H棟)・鮫島さん(A棟)、広報専門部会長の山口さん(K棟)、管理センターの金川さんの計5名で同マンションを訪問しました。

ベンタナヒルズは、篠栗町202号線沿いの丘陵地(福岡市内中心部より都市高速でバスで30分程度)に位置し、平成8年3月に第一期分譲(事業主:九電工)を開始し、現在第三期まで分譲が進み9棟748戸(計画:12棟、1049戸)で構成され、当リベラガーデンと分譲開始時期・規模的に似た団地型マンションであります。

このマンションの管理棟内には、集会所(ミーティングルーム)以外に屋内プール・屋内ゴルフ練習場・エアロビクススタジオ・スポーツジム・ピアノルーム・カラオケルーム・陶芸室・茶室等数多くの施設(カラオケ以外すべて無料)があり、子供から年配の方々が利用(利用率6割程度)されているそうです。

また管理センターと各家庭へのケーブル通信網が整備され、管理センターからのお知らせや各施設の利用状況が家庭のテレビ画面を通じてわかるシステムとのことです。

防犯システム体制は、防犯カメラ49台を設置し、24時間監視警備員と夜はさらに専用車(パトカー)による敷地内巡回警備を行ない犯罪防止に努めているとの事です。

駐車場は自走式と機械式があり、2台目以降の車に関しては、マンション計画用地を駐車場に有効活用して現在のところ、問題になっていないようです。

今回、我々の訪問に応じて頂いた方は、管理組合の古屋管理部長で、この方は管理会社(九電工の関連会社)の社員の方で、同マンションに住まれ、管理組合の第一期で副理事長を経験され、同マンションに詳しく事務局長的な立場として管理組合・住民と管理会社とのパイプ役になっているそうです。

同マンションにおける今後の課題は、計画に対して3棟301戸が未着工であり、屋内プールをはじめ数多くの施設運営並びに維持に多額の費用が住民の負担になるため、管理組合として事業主(九電工)に対し、早期着工の要請を行なっているそうですが、現在のところ、事業主からは着工の話がまだないそうです。

当リベラにおいてベンタナさんのような施設管理運営・更新等、多額の費用が発生する施設はありませんが、今後全体共用部での大規模設備改修工事など、多額の費用を要する案件があり、将来に向けた管理組合の財務体制を確立して行く事が、必要になって来ると感じました。

今後リベラとして、時代にあった対応・課題等を、積極的にリベラの皆様と話し合い、進めて行きながら成長していきたいと思っております。

(I棟:平野 瑞保)



プール



フィットネスルーム



サウナ



ゴルフ練習場



キッズルーム



ピアノ室



陶芸室

G棟・A村氏の

# 流浪の単身赴任日記

鹿児島編



※G棟と言いつつも週末にしかいません。  
忙しい時の週末は福岡に帰って来れない時もあります。

このたびご縁があり広報誌へこれまでの引越し、転勤生活を綴るよう依頼を受けました。ここのリベラ・ガーデンには、私より豊富な転勤を経験なさった方も、お住まいと推察致します。この程度の転勤経験を語るなど僣越とは存じますが、しばし駄文にお付き合いくださいませ。

今回のタイトルは“鹿児島編”と致しました。やはり転勤のスタートは生まれ故郷である鹿児島県。それまで住んでおりました福井県から、転職のため鹿児島県始良郡隼人町（現在の霧島市隼人町）へ転居しましたのが2001年になります。

鹿児島での生活を語る上でやはり外せないのが、“温泉”そして“桜島”ということになりましょうか。

私が住んでおりましたのが、霧島市隼人町。霧島という名称から連想いただけだと思いますが、宮崎県との県境にあります「霧島連山」の麓にあたりますため、良質の温泉が数多く湧いております。

そして、いわゆる町の銭湯のような形態をした温泉が多いのも特徴でございます。

家族湯すえひろ・西郷どん温泉・日当山温泉・花の湯など、仕事から帰宅した後、これらの温泉に出かけておりました。

同じ職場の人と、これらの温泉で顔を合わせることもしばしばあり、温泉が日常生活の一部になっているようで、実により環境でございました。

次に触れる話題が桜島です。

洋上にそびえる桜島の姿は本当にすばらしく、鹿児島県外より訪れる方はもとより、地元の人間にとって大切な観光資源なのですが、時に生活に影響を及ぼす厄介な存在にもなります。

この原稿を書いている8月18日にも大きな噴火があり、噴煙が上空5000メートルに達し大量の火山灰が降った様子がニュースにもなりました。

周辺に住む住民は、噴火のたび、この火山灰に悩まされることになりませんが、降灰は桜島上空の風向き次第…というのをご存知でしょうか？

テレビ気象情報の中で桜島上空の風向き（予想）が表示され、降灰に対する備え（洗濯物を屋外に干すか屋内に干すかの判断）の一つとなっています。ちなみに私が住んでいた霧島市隼人町は桜島の北に位置しているため、南からの風向きの際は要注意というわけです。

私の記憶では1985年頃の噴火に伴う降灰も相当なものでした。

通っていた高校の屋上に降り積もった火山灰を、クレーン車を使って取り除いたり、積もった灰で校庭のトラックレーン用のロープが見えなくなり、重機を使って除雪ならぬ“除灰”していたほどです。

桜島の雄大な景観、そして噴火（降灰）という自然の脅威にも触れ、また温泉という恵みにもあずかり、ふるさとの生活を楽しんでいた矢先です。2004年4月、転勤辞令をもらい約2年10カ月生活した鹿児島を離れ、家族で福岡の地へ赴いたのであります。

単身赴任日記とタイトルしつつも、それは次号以降になります、あしからずご了承くださいませ。

(G棟・A村)

好評であれば次号福岡編へ続く。。

さらに好評すぎるようであれば  
さらに続く今後の予定。。  
福岡編→熊本(単身赴任)編→長崎(単身赴任)編→  
熊本リターン編→(大好評であれば番外：福井編  
をおおくりいたし倍返しといたします)



家族湯すえひろ



西郷どん温泉



日当山温泉花の湯



桜島のライブカメラは  
[http://373news.com/\\_sakucap/](http://373news.com/_sakucap/)  
どうぞ！

リベラガーデンに住んでる有名人インタビュー  
第3弾

# 星野さんインタビュー

さて新垣投手・山崎捕手に続き、1998年から2008年まで11年間、ホークスの投手として活躍、現在はホークスの育成担当スタッフとして未来の1軍選手を、鍛えています。特に、1999年の日本一は星野さんなくしてはできなかったと言われています。彼もまた、なんとリベラガーデンにお住まいです（棟はやっぱり秘密です）。そこで《リベ・コミ》編集部では、突撃インタビューを試みました。

Q.1 入居は何年何月ですか？

2007年3月に越してきました。新垣・山崎よりも前から住んでいます。

Q.2 リベラガーデンに決めた理由は何ですか？

海が一望できる景観と、子どもが生活するにあたっての環境の良さからです。（おっと、これで海側の4棟のどれかっぼいですねえ）。

Q.3 実際に住んでみて、住み心地はいかがですか？

想像以上の住み心地の良さです。

Q.4 休日はどのように過ごしていますか？

ゴルフ、サウナで汗を流しています。

Q.5 管理組合に、ご意見・ご要望はありますか？

いつも住みやすい環境を作っていただき、ありがとうございます。

Q.6 今後の抱負をお聞かせください。

ホークスの若手選手が、ひとりでも多く一軍の舞台で活躍できるように、サポートしたいです。



お忙しいところありがとうございました。

リベラのみなさん、星野さんのサポートとともに、ホークスをしっかり応援しましょうね。

# 愛宕浜沖のえくぼ



リバーガーデンに近い沖合で博多湾の海底が「えくぼ」のように凹んでいることをご存知でしょうか？

東西方向に2km、南北方向に西側が500m、東側が300mの台形で、周辺の海底より約8m程度、深い窪地になっています。容積で見るとヤフードームの1.6倍、285万㎡にもなります。

ここには、海中に溶けている酸素が極めて少ない孤立した水の塊（かたまり）、貧酸素水塊（すいかい）があり、海中や海底に生息する生物の大量死が発生する可能性があります。

また、窪地は有機物を多く含んだ強い硫化物臭を持つ底泥が堆積しています。東京湾や大阪湾などでも見られる現象です。もはや、「えくぼ」ではなく、「痘痕（あばた）」でしょうか？

同じように百道浜沖にも「痘痕」があります。こうした海底の窪地が出来た原因は、1980年代から進められた博多湾の埋め立て事業で、埋め立て用の土を採取した事です。採取した土は、西から小戸、愛宕浜、百道浜、地行浜に使われました。目の前の出来事は、私たちの足元が原因なのです。

そこで、国の出先機関の博多港湾・空港事務所が2011年から、まず、百道浜沖で窪地の埋め戻し作業を始めています。百道浜の沖合に長い間、作業船が停泊しているのに気付いた方もおられると思います。夜間は、航行の安全を図る為、明るい識別灯を付けています。

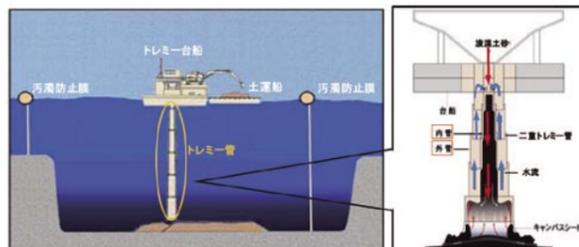


博多港事業計画図

百道浜沖の窪地容量は、165万㎡と、愛宕浜沖に比べ、ひと回り小さくなっています。百道浜沖では、その窪地を更に小さく、1工区を南北500m東西400mの区画に分けて、4工区ずつ、埋め戻し作業を進めています。埋め戻しに使う土砂は、博多港の航路や泊地の浚渫工事が出る土砂を使っています。

予定では、百道浜沖は、本年2013年9月末で作業を終わって、2014年から愛宕浜沖の埋め戻し作業に入る事になっています。作業は、海苔養殖に配慮して毎年4月から9月までに限定しています。作業は、本来、貧酸素水塊の解消という自然環境保護が目的です。この為、土砂を投入した際の海水の汚濁防止の為、作業海域を海底まで防止膜で囲んでいます。

その上で、2重構造のパイプを海底まで垂直に立てる「2重管トレミー工法」を採用しています。海上の作業船からパイプを使って土砂を投入しています。この工法で、先の有機物を含んだ、強い硫化物臭を持つ底泥＝痘痕の上に埋め戻し土砂が積み重なるようになります。



2重管トレミー船施工イメージ図

底泥＝痘痕が上に来たり、底泥と埋め戻し土砂と混じれば、埋め戻しの意味がありません。作業中は、ボーリングで地層を柱状に採取し、底泥の上に土砂が重なっているかを確認しています。土砂投入による海水の濁りは、海底から50センチ程度に留まり、拡散も、パイプから半径50m～100mと言うことです。



監視点位置図

水質調査や生物調査を施工前から施工中、施工後と、数年間、継続する予定です。施工後の2011年11月と2012年2月の調査では、窪地の底生生物＝アサリなどが増えたことが確認されました。愛宕浜沖の海底も痘痕が解消し、博多湾に豊かな自然が戻ることを祈ります。(K1406 中村靖)

# 電気自動車に乗ったカモメ



8月9日（金）の夕方、1羽のカモメがJ棟東側の通路に蹲っていました。

脚を畳むようにして通路に蹲り、近づくと、立とうとしますが、片脚を傷めているのか、立ちあがれず、よろよろしています。

勿論、飛ぶことも出来ません。このまま放置すると、カラスなどに襲われる心配もあり、管理センターの夜警担当が保護し、ダンボール箱に収容しました。



翌日、福岡市動物園に相談すると、カモメを持って来てくれば、園で治療した後、自然に帰してくれると分かりました。翌日10日（土）は生憎、車を家内が使用しており、カモメは、カーシェアリング進行中の電気自動車に乗せて、正午、福岡市動物園に運びました。

こうした野生動物の保護は、2010年に福岡県が施行した傷病野生鳥獣保護要領に沿って行なわれます。受け入れて貰えるのは、日本固有の野生動物ですが、同じ鳥類でも、害鳥のカラスやドバト、スズメ、ヒヨドリは保護の対象になりません。

また、受け入れて貰った後の野生動物の状況は、教えてくれないことになっています。今回の場合、福岡市動物園の善意で受け入れて貰っている事や、動物園が治療に専念出来るようにする為だそうです。

あれから、ほぼ2カ月経ちました。カモメは、きっと、治療を終え元気になって海に帰ったと思います。潮の香りに包まれたリバーガーデンの皆様のご協力で野生の命がひとつ救われたかなと思います。



一方で、野生動物の多くは、寿命が尽きる前に他の生き物に食べられます。今回のように野生動物がケガや病気で命を落とした時も、他の野生動物が食べて、そこから多くの新しい命が育つという自然界の連鎖や、厳しさがあることも考えさせられました。



(n)

♪ハーバーライトが朝日に変わる、その時、一羽のカモメが翔んだ～（渡辺真知子）

# 10棟

# だより

各棟部会長さんたちのメッセージです。  
今回から写真付きです。  
みなさん、協力して棟を盛り上げて  
いきましょう。

## H棟 ウェストウイング

棟部会長：宮崎 武



棟部会長を任せていただいてから半年が経ちますが、まだ戸惑うことばかりで、皆様のお力添えをありがたく思っています。

リバーラガーデンは、多くの住居者にともなって、出入りする者も多く、不審者の心配も出てきます。私としましては、防犯面に力を入れていきたいと考えています。皆さまからのご意見やご要望がありましたら、どうぞお寄せください。

急に気温の下がる日も増えてまいりました。皆さま、風邪など召されませんよう、お身体にお気をつけください。

## C棟 セントラルウエスト

棟部会長：福田 裕二



『凡事徹底』、これは今年の夏の甲子園で、決勝に進んだ両チームの掲げたテーマでした。

野球だけではなく、日常生活・学校生活で自身を律する。挨拶や清掃、整理整頓などの当たり前の事を、当たり前前に繰り返してきたそうです。朝の通勤途中の事です、リバーラ内でゴミやタバコのポイ捨てが目についた事がありました。

リバーラ内でも『凡事徹底』を推進して行きましょう。

## A棟 パークウイング

棟部会長：鮫島 宗哉



管理組合理事を仰せつかり、再び地元の新旧の方々と交友の有難さ、嬉しさの日々です。

私がA棟入居から18年が経過、周囲の方々も少しずつ入れ替わっている一方、朝の散歩中チョッと老けた？笑顔の方たちにバス停などでお会いし、一言二言交わす時間も素敵な一瞬です。

私の仕事は、コミュニケーションをテーマに、アナウンサー、ビジネスコーチ、会議などの進行を図るファシリテーター。住人の皆さん同士が、この「リバーラの今と未来」について、自由気ままに誰もが参加し、楽しく話せる場づくりが出来ないかと思案しています。

常設の「語り場」のようなスペースがあって、美味しいコーヒーが煎れてあって、いつも誰かがいる、そして時には住人全部が集って話す、“カフェ「場」”が生まれる、そんなことが実現できないか、今期理事仲間でも相互に熱い思いを語り、思い描いています。

## I棟 マリナタワー

棟部会長：豊後 政浩



7月は棟部会終了後、タワー内の施設見学を実施しました。限られた時間で、ヘリポート・中央管理室・スプリンクラー設備・貯水槽など、災害時に関連する主だった施設の案内をして頂きました。防災対策/災害時の備えは大丈夫か等、見学中にも活発な質疑応答があり、有意義貴重な体験をさせていただきました。

棟部会としては、今後駐車場へのアプローチ周りの危険箇所（飛び出し防止の扉）の改善、夏場のエレベータ内の温度上昇に対する問題等を中心に、改善を進めるべく、色々な意見交換を行なっているところです。

## J棟 イーストタワー

棟部会長：東 和貴



J棟部会長の東です。日頃から棟部会活動にご協力頂き、ありがとうございます。

早いもので第18期が始まって3回目の会合を終え、現在J棟では大規模修繕工事5年目点検を実施しております。7、8月で、棟部会・管理会社・施工会社による点検を終え、報告書の確認作業を行なっております。今後は、報告書を元に補修等について、施工会社との打合せを行なう予定です。工事の際は、ご協力いただけますよう宜しくお願い致します。

皆様が住み易い環境で安心して暮らせるよう18期役員一同、精励する所存でございます。

## K棟 オーシャンウイング

棟部会長：植木 謙一郎



7月20日にK棟散水ボランティアに初めて参加させて頂き、植込みの雑草の多さに驚きました。約1時間の作業である程度は除草しましたが、1週間もするともう雑草が目立ってきます。

改めて見てみると、植栽の密度不足（発育不良？）と、枯死により雑草が目立のかな？と感じました。K棟東側は特に目立つようです。

専門的な事は分かりませんが、出来る事から始め、より良い住環境になるようにしていきたいと思っております。

## E棟 セントラルイースト

棟部会長：中川 百合雄



E棟部会活動にご協力頂きありがとうございます。

約20年前、仕事の関係で近くに借家しておりました。転勤族で、全国を転々としたあげく、昨年8月、家族の強い希望で環境の良いこの地に、根を貼ることになりました。大きな団地に、沢山の人が住んでいる中で、個々の問題の他に共通する問題も沢山あることを、昨年一年間理事活動で、学びました。

今年度は、昨年の学びを活かし、少しでもE棟の皆様のお役に立てるよう務めます。これからもよろしく、お願いいたします。

## G棟 サウスウイング

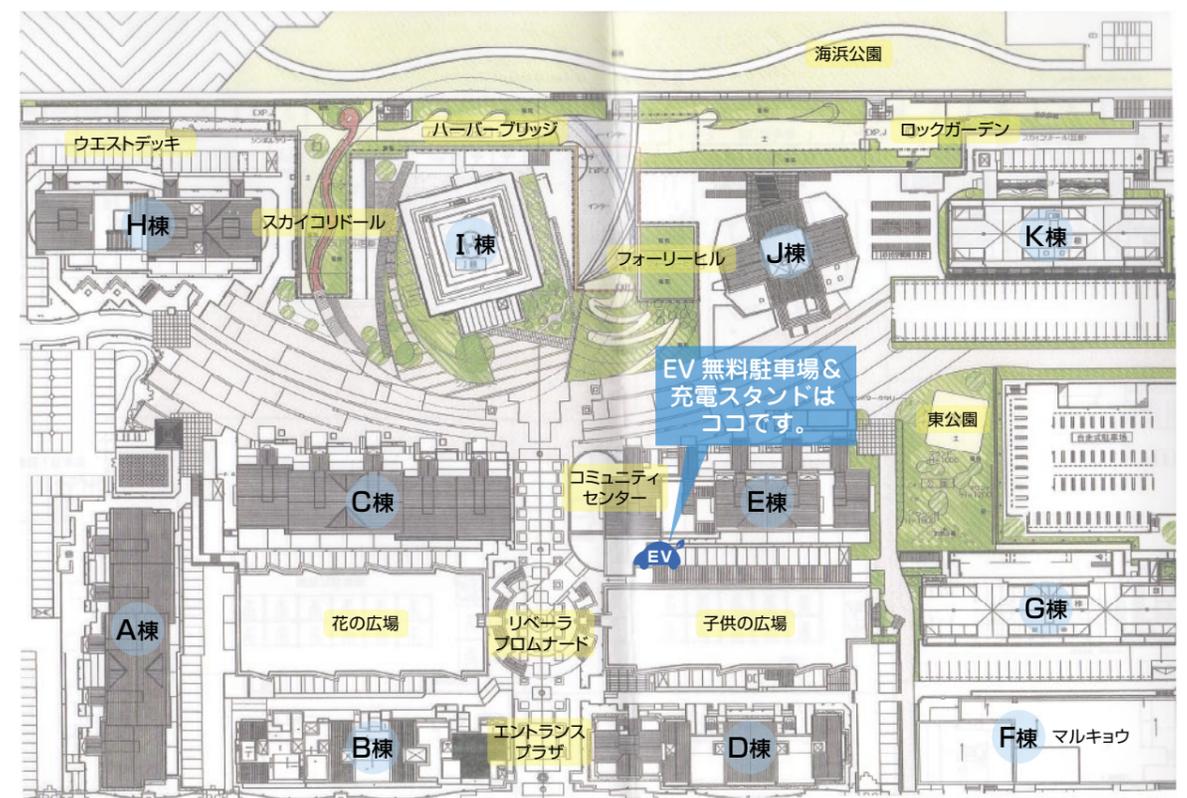
棟部会長：有村 友宏



G棟棟部会の活動も遅ればせながらようやく本格的に開始されたところでございます。

「年間事業計画書」にも記載致しました今期の重点活動項目の一つとして、今後大きく影響してくるであろう長期的な修繕のあり方について調査、検討を、これから行なってまいります。

皆さまお一人お一人が描く“よりよいG棟の将来像”。全てを充足することは難しいことですが、ご意見をいただき棟部会役員間で議論をしていきますので、引き続きご協力くださいませ。



## B棟 アベニューウエスト

棟部会長：阿久根 正彦



6月の総会から早くも3カ月が経ちました。我が家では、小学生の娘が持ち帰ってきた朝顔が、100をも超える勢いで咲いてくれました！！

その一方、B棟南側の新しい芝生が、今年の猛暑の為枯れつつありましたが、前々棟部会会長の中村さんをはじめ、現B棟役員の方々の皆様のおかげで持ち直しつつあります。ご協力に感謝いたします。

今後とも、ご助言・ご協力の程、よろしくお願い致します。

## D棟 アベニューイースト

棟部会長：糸瀬 和真



2020年のオリンピックが東京に決まりました。このニュースを聞いて、この福岡でも'95年にユニバーシアードが開催されたのを思い出しました。

私がリバーラガーデンを初めて訪れたのがその頃で、現在のG棟とK棟が建っている間付近に選手村センターがあったように記憶しています。私の住んでいるD棟は選手たちの寄宿舎として利用されていましたが、後で聞いた話によると韓国の選手団だったとのことでしたが、事実のほどはよくわかりません。入居した頃はまだアスファルトにいろんな国の選手たちの画いた落書きが残っていました。

時は流れましたが、この地に世界の若者が集い競技に集中していたと思うと、胸躍る思いがしますね。

第7期 副理事長  
今回は 関根 恒晴様  
(現I棟)

## 大型客船が 堂々パナマの 秘境(山)を越える

♪ 決定的・感動的瞬間を  
♪ ご堪能ください ♪

平成4年8月、60歳にて民間企業を定年退職。この直後の10月、私にとって初の客船クルーズにトライしたが、気がついた時には10数回のクルーズを記録していた。一方、平成5年3月には、東京から福岡への移住に踏み切るとともに、サラリーマンの現役時代とはまったく真逆の職業に転進。この仕事が結構忙しく、1カ月のうち約3週間前後は、妻を福岡の家に残して全国を飛び回るハメとなった。

そこで、妻へのせめてもの罪滅ぼしを含めて、生活のメリハリも意図して、クルーズ・ツアーを重ねてきた次第。「クルーズの醍醐味♪」については、筆舌に尽くしがたいものがありますが、長年にわたって付けている日記の中から、航海中の一部を抜粋してみました。

この粗末な一文から「クルーズの醍醐味♪」の一端なりとも垣間みていただければ、誠に幸いです。

### 【クルーズ第10日目】10 / 26 (火) 快晴

いよいよ今日は、巨大客船が山を越える迫力のパナマ運河通過！

パナマ運河の工事が本格的に開始されたのは1880年のこと。なんと明治維新から僅か12年後だ。監督は、その10年前にスエズ運河を完成させたフランス人レセブスだ。パナマは、太平洋から大西洋までの直線距離だと60km、実質82km。スエズ運河(162km)に比べればたいしたことはないと言われていた。

しかし、平坦な砂漠を掘削して完成した巨大な河川ともいべきスエズ運河の工法は、高低差のあるパナマでは通用しなかった。さらにスエズ運河で結ばれた地中海と紅海の水位差30cmに対して、パナマの場合、太平洋と大西洋では3m近くの水位差があるとのこと。ただ掘って水路を開くだけでは、3mもの潮流が大西洋側に流れ込み、運河の中で船が難破することもあり得たと言われている。

そこで考案されたのが、海拔の最も高い約25m地点のガツン湖までの行程を10万トン級の巨大船舶を上げ下げする「水のエレベーター(外観としては巨大なプール)」を創り上げることだったようだ。

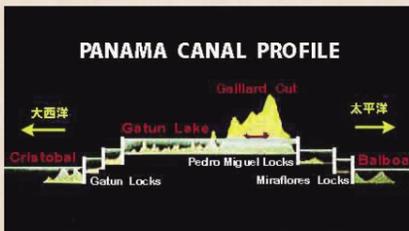
さらに、このガツン湖(人造湖)の設計には、日本人技師[東京帝大出身:青山士(あきら)]が携わっていたことを知り、大いに驚嘆する。

このガツン湖を頂点に、太平洋側と大西洋側のそれぞれに4箇所の「ロック(閘門)」と呼ばれる水量調節水門により仕切られた3つの「チャンパー(閘門室)」を設けて、このチャンパー内の水量を調節することによって、次第に巨大船舶がチャンパー(水のエレベーター)を経由しながら「船の山越え」を実現してゆくシステムだ。まさに、人類が創り上げたアイデアあふれる最大最高の構造物と言えるものだ。

さて、昨日下午見しておいた眺望絶景の18階の船主部分デッキに居を構えてから2時間程度を経過したところで、ようやく「ミラーフローレス・ロック」の手前の大橋(横浜ベイブリッジに酷似)に差しかかる。デジカメとムービーカメラの双方を駆使して、パシャ!パシャ!ジージー!と撮りまくる。ああ、忙しい!

そうこうするうちに、「ミラーフローレス・ロック[太平洋側からの第1チャンパー(閘門室)]」の第1閘門(水量調節の水門)に辿り着く。いよいよ、我々の乗船している10万トン級の大型客船によるド迫力の秘境パナマの山越えが始まる。

この水門の向こう側が、第1チャンパー(閘門室)だ。第1チャンパーには、我々より先に別の大型客船が進入していて、たった今第2チャンパーに移動するための注水システムの稼働が始められたところだ。



先行の船が入っている第1チャンパーの水位が徐々に高まっていくのが手に取るように見える。このチャンパー内に注水する水は、頂上にあるガツン湖からパイプラインにて運ばれる。注水システムとしては、チャンパーの底面の注水口から行なうことにより、船の横揺れを防ぐことができるとのこと。何故に横揺れを防ぐ必要があるのかというと、通過する船舶の舷側とチャンパーの両側の岸壁との隙間は僅か60cmしかないので、横揺れが発生すると船舶とチャンパーの双方の破壊を回避することが困難となるからだとのこと。

やがて第1チャンパーの水位が、隣の第2チャンパーの水位と同一レベルに達すると、第1チャンパーと第2チャンパーの間の第2閘門の巨大なゲート(8階建てのビルの高さ)が開き、両岸の機関車に牽引されながら、先行の船が、ユックリユックリと第2チャンパーに進入して行く。

この一連の動きは、まさに眼前に展開される一大ページェント・一大ドラマ!今度は、いよいよ我々の船の出幕だ。目の前の第1チャンパー内の水量が減り始めるのがよく見える。そしてこの第1チャンパー内の水位が、我々の船が浮かんでいる水面と同じレベルに達すると、眼前の第1閘門の巨大なゲートが粛々と開き始める。完全に開き終わったところで、船の左舷および右舷のそれぞれとタイトロープでしっかり繋がれた両岸の電気機関車(片側3両、合計6両)が、我々の船を牽引し、第1チャンパー(閘門室)内へと導いていく。目の当たり展開されるこのシーンは圧巻そのものだ。

我々の船幅32mに対して、舷側と岸壁の隙間が60cmしかないので、この幅をギリギリで通過できる船舶は「パナマックス」と呼ばれており、左右のどちらも岸壁にも触れることなく、安全にしかも、粛々と前進できるのは、船のエンジンは完全に停止したまま、船の両舷側と左右の岸壁上の電気機関車(昔はSL)がタイトロープでしっかりと繋がれているからだ。

これらの電気機関車のすべては、なんとレッキとした日本製とのこと。ここでも日本の高度な技術が国際貢献していることに、大いに感銘する。

我々の船体のすべてが第1チャンパー内に進入したところで、船尾の後方に位置している第1閘門のゲートの閉鎖行程が始まり、完全に閉鎖したら、第1チャンパー内にガツン湖からの注水が始まった。これからは、先行の船と同様のプロセスで、第2チャンパー~第3チャンパーへと昇りつめていき、やがて運河の中央に位置するガツン湖に進むこととなる。そこから大西洋側に向かう際は、真逆のプロセスを経て、約1,500名の乗客・スタッフを乗せ、全長300m・全幅32mの巨大客船が、「水のエレベーター」に乗って、周辺を睥睨するがごとく堂々と下山して行く姿は、まさに一幅の名画を観る感ありだ!

全長82kmのパナマ運河の、平均的な客船の運航時間は約9時間。単純計算だとジョギング程度の時速9kmぐらいとなる。「運河内の船足って、そんなに遅いのか!?!」と一度は思ったが、実はココにパナマ運河航行の計り知れない経済効果の魅力が隠れていることに気がつき、これまた大いに感動・感銘する。

さて、運河通航中、早朝から昼下がりまでの約8時間ほど、立ったままの姿勢にて、連続する感動・感銘シーンを凝視していたので、自分の足と脚が思うように動かず、たいへん困惑する。

そんなわけで、さすがにこの後、船内で行なわれた諸イベントには参加できず、就寝におよんでしまった。ああ、大変貴重な経験・興味深い経験を積むことができ、本当に良かった。しかし、その反面、疲れたなあ!

このようにしてパナマ運河は、世界的なヒトやモノの膨大かつ効果的な「移動」に対して、甚大なる貢献を果たしてきたが、ここに来て、さらなるスケール拡大が要請されており、単にパナマ国の一国のみの課題にとどまることなく、グローバルな課題としての対策が急がれている。



以上、当時の日記からの抜粋記事について、若干の添削等を通じてまとめてみましたが、最後に述べている「パナマ運河の持つグローバルな課題」については、仄聞するところによると、パナマ国を中心として、世界の有力な国々をはじめ、国際金融機関等の支援を得て、運河の全域にわたる拡幅工事を進めようとして、見事に課題解決を実行中とのこと。これにより、米国の「シェールガスの供給」に関わる輸送コストの甚大なる逡減効果にも直結する一大快挙と言えそうです。

善哉!快哉!

第13期 副理事長  
今回は 大塚 政徳様  
(B棟)  
お願いします。

# リベラガーデン Calendar



## 季節の花だより キク

キクと言えば秋の季語になるほどおなじみの花ですが、奈良時代に薬用として中国から日本に渡って来た（異説もあります）多年草で、寒い冬でも小さな芽と地中の根はしっかりと生きています。

現在、園芸店などで販売されているキクの多くはヨーロッパやアメリカで改良された洋ギク（ガーデンマムとかクッションマムとか呼ばれています）で、随分と華やかでモダンな雰囲気のものが出回るようになりました。

もちろん日本で改良された園芸種もたくさんあり、洋ギク和ギクの境目は判然としません。

このような園芸品種の中でも花つきのよいのがスプレーギクです。日当たりさえよければ旺盛に生育するので、ガーデンに植えたりボックスに植えたりと活用範囲は多様です。

キクは花期も長く寒さにも強いので、小輪多花性のクッションマムや大輪のポットマムをベランダや部屋に飾ったりしてはいかがでしょうか。

また、これから晩秋にかけて各地で菊花展や植木市などもありますので、新しいイメージのキクに出会えるかもしれません。少しばかり郊外に足を運べば、野生の野菊にも会えるでしょう。

華やかな園芸種もよし可憐な野菊もよし、さわやかな秋の中お出かけになってはいかがでしょうか。

きっと楽しい思い出のアルバムが増えることでしょう。  
(リベラガーデン花の会)



編集  
後記

広報専門部会では、理事会に対するご意見、ホームページへのご要望、《リベ・コミ》の投稿など、バシバシ募っています。

管理センターもしくは [ribera906pr@gmail.com](mailto:ribera906pr@gmail.com) までど〜ぞ

(Y)